

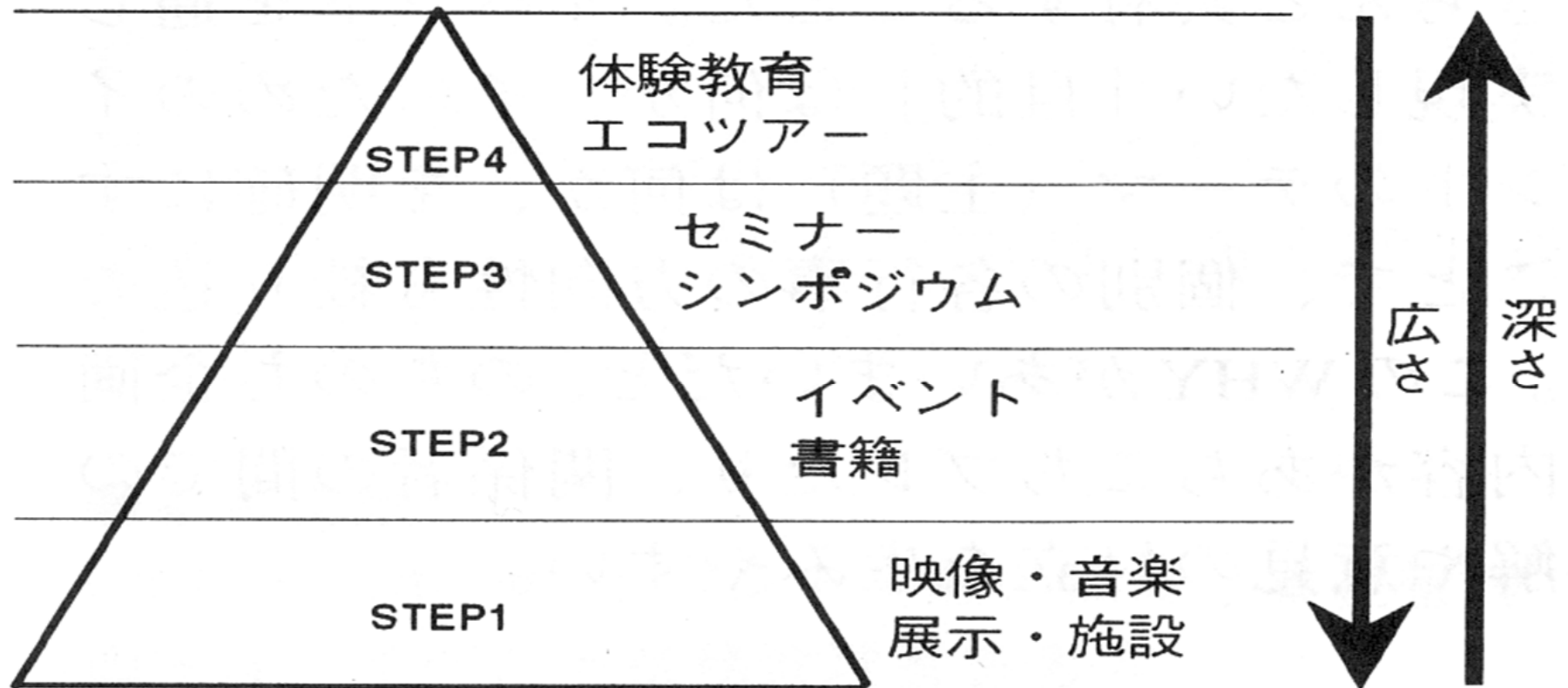
海洋観光の振興、特に、
海洋の周知・啓発を
どのように進めるべきか

東京海洋大学 海洋科学系
千足 耕一（ちあしこういち）

海洋観光を

「海洋に関わる観光資源及び自然状
況並びに海上交通を利用、活用する
観光」と定義

海の文化を伝える



藁谷豊作成

1 教育の観点からみた観光の取組についての事例紹介（教育旅行）

日次	行程		宿泊
	午前	午後	
1	移動〔学校→→→現地〕	歴史学習 史跡見学	民家
2	民家での体験学習〔グループごとに漁業体験や農業体験など〕		民家
3	選択体験『海の体験学習』	水族館見学	ホテル
4	班別自主研修	移動〔現地→→→学校〕	

旅行会社の企画：体験がキーワードへ、より本物志向へ

表：松本英樹（2012年3月）水辺の野外教育，杏林書院 より抜粋

各学校に対応したプラン

予定時刻	9 : 00	9 : 30	10 : 30	11 : 30	12 : 30	13 : 30	14 : 00
A班 (60名)	開校式 ～ 更衣	スノーケリ ング	カヌー	昼食	ビーチ クラフト	ビーチ バレー	更衣 ～ 閉校式
B班 (60名)		ビーチ バレー	スノーケリ ング		カヌー	ビーチ クラフト	
C班 (60名)		ビーチ クラフト	ビーチ バレー		スノーケリ ング	カヌー	
D班 (60名)		カヌー	ビーチ クラフト		ビーチ バレー	スノーケリ ング	

沖縄県海洋レジャー事業協同組合のHPを参照

表：松本英樹（2012年3月）水辺の野外教育，杏林書院 より抜粋

つながりあるプログラムづくり

学習の場面	プログラム例	留意点
ロングホームルーム	・班分け（仲間づくりゲーム） ・体験活動プログラムをVTR学習 ・用具の使用方法やサイズ合わせ	学年で統一して取り組むことが望ましく、教員同士の意思疎通や講習会なども大切
総合的な学習の時間	・プールでのデモンストレーション ・PCでの情報収集や報告書作り ・「海や環境」に関する調査や討論	各教科から案を出し合い、横断的・総合的で、最終目的が明確な内容が望ましい
教科教育 （体育や美術などが取り入れ易いが、他教科も積極的に結びつけたい）	・体づくり運動（仲間づくりゲーム） ・着衣泳やフィン泳 ・流木やビーチグラスでのクラフト	教科での取り組み内容や成果に関する情報を学年全体で共有することが大切
学校設定科目（選択授業など）	・校内の自然を活用した体験活動 ・民間団体の指導による体験活動 ・学校近隣の水辺でデイキャンプ	学校周辺の人や物など地域の特色を活かした取組、リーダーの育成などが望まれる
特別活動（遠足や実習など）	・海辺での野外炊飯（BBQ） ・ビーチスポーツの学級対抗戦 ・ボート体験実習での集団行動	主となる活動に結び付く、ルールや規範意識、チームワークを高める活動が望ましい

表：松本英樹（2012年3月）水辺の野外教育，杏林書院 より抜粋

- 高校力ヌー実習中、女子生徒が転覆事故で溺死

事故の状況

【事故の背景】

- 甲野花子は、平成17年9月当時、16才であり、千葉県立A高等学校普通科のスポーツ健康コースである2年4組に在籍していた。A高校は、平成5年度から、スポーツ健康コースを設置し、その1年生および2年生の正課の授業として、体育の教科に「野外活動」の科目を各1単位分設けていた。
- A高校の教諭らは、平成8年9月12日の職員会議において、平成9年度2年生の「野外活動」に力ヌー実習を取り入れることを決定し、17年度まで毎年度、2年生の「野外活動」において力ヌー専門業者であるアルファに生徒らの指導を委託して、力ヌー実習を実施した。
- 平成17年度の2年生の野外活動は、9月6日から9日までの間、新潟県魚沼郡塩沢町において、力ヌー、サイクリングおよびハイキングの各実習を行う予定で企画された。引率教員は、東原教諭、西村教諭および南部教諭の3人であり、アルファの力ヌーインストラクターは、乙山一郎、乙山次郎および丙川三郎の3人であった。

安全の確保は最重要課題である

構造的な問題とその対応

●学校教諭らが取り組もうとしている体験活動に関して素人であること

→ つながりのある学習で教師も学習する

●ガイド業者はツアーを実施しないと収入につながらないこと

→ 代替プログラムを開発しておくこと

●指導者・インストラクターのレベルを判断する基準を学校教諭が持っていない可能性があること

→ 業界団体がガイドライン等を作成する

●毎年実施している事業であるが、担当の学校教諭が変わる可能性がある。（目的意識が希薄になる可能性がある）

→ 「どのような教育目的で実施するか」が重要である

2 海洋に対する周知・啓発の取組 についての事例紹介

- 福岡県マリンスポーツ実行委員会 九州UMIアカデミーの実施 → 地域のマリンスポーツ団体間の連携 http://www.marinoa.co.jp/port/marine_kids/umi_academy.htm
- 幼児を対象とした水辺の体験活動プログラムの事例（NPO地球の楽校） → 幼いころからの体験
- サバニレース
（ http://www.photowave.jp/sabani_s/ ）
→ 地域の海洋文化・自然に触れる体験

地域団体の連携による既存施設を利活用した ウォータースポーツの拠点づくりプログラムの開発・研究

～地域団体の連携による既存施設を利活用したウォータースポーツの 活動拠点づくり～

【課 題】（現状）

- ①海離れ（水離れ） ②水辺を活用した自然体験プログラムが少ない
- ③水辺の施設活用頻度が低い ④マリンスポーツ団体間の連携がない
- ⑤海洋基本法に基づいたカリキュラムが少ない

1. 仮 説

地方自治体と地域内のスポーツ団体等が協力して、地域の財産である施設を活用して地域住民のウォータースポーツ実施機会を増加することで、ウォータースポーツ及び海洋教育の普及につながる。

2. 目 的／成 果

地域の施設を活用したウォータースポーツ実施プログラムを定期的かつ継続的に実施する体制を確立し、地域内でのウォータースポーツ及び海洋教育に対する地域住民の理解を高め、また、地域内教育機関に対し、ウォータースポーツ及び海洋教育の重要性及び必要性を認識してもらうことを目的にモデル事業を開発する。

- ①福岡モデル「地方の都市型モデル」の全国展開の可能性（海の駅）
- ②2012年度以降に自主運営の可能性 ③その他

3. 構成団体：福岡県マリンスポーツ実行委員会

構成団体 ●福岡地区マリンスポーツ実行委員会／●NPO法人 マリゾンビーチスポーツクラブ
●福岡県スノーケリング協会／●NPO法人 海の駅ネットワーク
●九州運輸局／●その他（広域スポーツセンター等）

九州UMIアカデミー 博多湾マリンスポーツ教室

【福岡マリンスポーツアカデミー2011】

体験 編



マリノア南海面でカヤック体験
まずは準備運動。



前進、後進、曲がり方などを
練習します。



操作に慣れたら記念撮影



マリナーの施設を見学。
船の上下架体験など。



マリノアの桟橋から
博多湾クルーズに出発



船内で海から見た博多の歴史を
楽しく紹介。



マリノアの砂浜でビーチバレー。



マリノアでビーチサッカー。



マリノアでライフセービング。



都市型のプログラム：ライフセービング活動体験

幼児が水辺環境に対する興味や楽しさを発見するような内容を重視したプログラム（NPO地球の楽校による，2009）

プログラム名	活動内容
生き物観察	● 干潮時の磯に出て、生き物を探し、観察し、捕まえる。 ● 捕まえた生き物を、触ってじっくり観察等。
波打ち際での遊び	● 浜に自分たちの居場所を作る（日よけ風除けのタープテント設営）。 ● 海慣れの遊びを体験する等。
波遊び	● 海慣れの遊びを体験する。 ● 波遊び（ボディボード使用）
漂着物を用いた遊び	● 浜に打ち上げられた漂着物の収集 ● 収集した漂着物を利用して作品を作成する。



海辺の幼稚園をつくろう







梅雨明けの慶良間諸島を沖縄伝統漁船で帆漕するレース



座間味島から那覇港までの約35kmを帆漕して海峡横断するレースです





ご清聴、ありがとうございました